

長野県

民俗の会通信

第310号

○「ずく」の語源を考える…………… 卷山 圭一
 ○葉書でつぶやくコーナー…………… 墓石に想う…………… 板橋 春夫
 ○葉書でつぶやくコーナー…………… 『衣の民俗事典』ババのつぶやき…………… 倉石あつ子
 ○長野県民俗の会第二四七回例会参加報告…………… 小原 稔

「ずく」の語源を考える

一

「ずく」は長野県で最も人気のある方言である。民間放送のラジオやテレビの番組名でさえ使われている。また、たとえば小林君江の四駒漫画『信州・松本平の方言マンガアルプス市民』では、登場人物たちのこんな会話がみられる(1)。

「ものぐさ太郎さのいところで」「ずくなし次郎さ」ってのがいてせ」

「うそこけ」

「ずくなしおばけ」になって人にとつつくだってじ。おっかねえじゃねえかい…」
 「ずく」の意味はなかなか共通語で表すのが難しいといわれている。北杜夫の『どくとるマンボウ青春記』には、次のようにある(2)。

「ズク」という信州弁は「まめ」くらいの意で、うんと働いたりすると、「あいつはズクがある」というふうに使う。

北杜夫は「まめ」ということばで説明しているが、『信州 松本 お国ことば』という冊

卷山 圭一

子では「根気や気力、やる気のこと」という説明を与えている(3)。また『塩尻市誌』第四巻には「こまめに働くこと 根気 熱心」とあり、「ずくを出せ」という用例を挙げている(4)。

東條操編『全国方言辞典』を参照すると「根性。根気。元氣」とある(5)。北杜夫は「信州弁」と述べているが、この辞典をみると、この語は長野だけでなく、青森・岩手・山梨・静岡・熊本等でも使われているという。柳田國男の監修による『改訂総合日本民俗語彙』を開いてみると、「ズク」は「ズクナシ」の項目に誘導され、神奈川県や山梨県では怠け者をズクナシ、静岡県や伊豆大島ではズツナシと呼んでいるという。この項目には「ズツナイを苦しいという意味に使うことは、中部、近畿、中国、四国の諸地方に広がっている」とあるだけで、ズクに関する長野県の具体的な用例は全く登場しないのである(6)。これだけ信州では使われているのに、である。

二

「ずく」の語源をめぐる諸説については、『長野県史方言編』の著作のある馬瀬良雄が、『信州のことば—二一世紀への文化遺産』という本のなかで整理をしている(7)。

馬瀬はズクの語源説を三つ紹介している。青木千代吉のズカ説、福沢武一のズツ説・ジク説、柳田國男のツク説である。

青木のズカ説は、『全国方言辞典』によればズカは「足」であり、ツカは「支え」であり、ズクはそれらからきているというものである。

福沢は青木説を荒唐無稽とし、「術」「能力」を表わす古語のズツに由来するという説を唱えた。これだと、静岡県や伊豆大島の「ズツナシ」とも共鳴するだろう。ただ、福沢本人も馬瀬も言うように、ズツからズクへの変化の説明がつきにくい。そこで『日本国語大辞典』の「ジク」に「根気、根性」などの意味があることを引き、ジク説も合わせて唱えている。

柳田國男は、古いことばにツクがあり、ツクとは杭、柱、背骨などの直立するものであったという。いま流行りのことばで言えば、「体幹」であろうか。ズクはツクからきてい

長野県民俗の会通信三一〇号

二〇二五年一月一日

会費年額 五、〇〇〇円

長野県民俗の会

振替 〇〇五二〇一三一三六五七

長野県民俗の会

E-mail : info@nagano-minzoku.chu.jp

URL : <http://nagano-minzoku.chu.jp/>